



The Institute of Actuaries of Japan
Think the Future, Manage the Risk

アクチュアリーとは何か

2025年11月21日

アクチュアリーセミナー一部会(大学等)部会長
新田 正吾



公益社団法人 日本アクチュアリー会

Think the Future, Manage the Risk

I アクチュアリーとは？

II 日本アクチュアリー会の概要

III 試験・教育制度

IV 国際的活動

V 新しい領域へのチャレンジ

アクチュアリーとは、

確率や統計などの手法を用いて、将来の不確実な事象の評価を行い、保険や年金、リスクマネジメントなどの多彩なフィールドで活躍する数理業務のプロフェッショナルです。

Think the Future, Manage the Risk

ー日本アクチュアリー会のスローガンー

当スローガンには、

「将来のリスクが多様化していく中で、アクチュアリーとしてあるべき姿を考えながら、リスクをマネジメントしていこう」

という アクチュアリーの意気込みが込められています。

アクチュアリー業務

具体例

1. データを入手・分析

過去の死亡率

2. 将来の前提・モデルを設定

将来の死亡率

3. 将来キャッシュ・フローを予測

将来の保険金
支払を予測

4. 意思決定（アドバイス）

保険料設定

○アクチュアリーの起源

アクチュアリーは、**18世紀のイギリス**において、生命保険の誕生と共に、合理的な保険料算出の専門家として誕生

○日本では、一般的に、当会の「**正会員**」がアクチュアリー

○どんな人がアクチュアリーになっているのか

- ✓ 確率・統計をベースとするプロフェッショナルであり、伝統的には、**理学系・工学系**の出身者が多い。
- ✓ 統計学を活用する**経済学**、**金融工学**などの分野も親和性が高い。

I アクチュアリーとは？/アクチュアリーの活躍のフィールド



The Institute of Actuaries of Japan
Think the Future, Manage the Risk

所属している会社

生命保険会社
損害保険会社
信託銀行
再保険会社 等

数理コンサルティング会社
監査法人

活躍フィールド

- 伝統的には保険商品や年金商品の料率設定、決算業務
- リスクマネジメント、データサイエンスなど、アクチュアリーの活躍するフィールドは伝統的分野を超えて広がっている

複雑化・高度化

社会環境・金融経済環境



少子高齢化



グローバル化

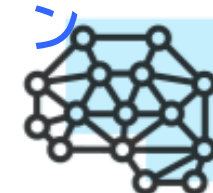


気候変動

デジタル
トランスフォーメーショ
ン



データサイエンス



AI

生命保険とは

人の生存や死亡、疾病など生命に係わるさまざまなリスクに備えて、将来の保障を提供するサービス

数十年という長期間にわたって加入者との契約関係を維持し、お客様よりお払い込みいただいた保険料をもとに、保険金や給付金の支払いを約束し続けていくため、生命保険会社は常に収支のバランスを保ち、生命保険事業を取り巻くさまざまな環境変化にも対応できる“健全な会社経営”が求められている。

生命保険分野のアクチュアリーの仕事

- ・会社全体の収支を分析するとともに、適正な保険料の算定や将来の保険金や給付金の支払いに備える準備金(責任準備金)の評価などを行っている。
- ・金融の自由化や少子高齢化等による商品・サービスの多様化、グローバル化や経営環境の変化のなかでも会社の健全性を維持・強化が図れるよう、従来の分野だけでなく、経営企画、リスク管理などのセクションにおいても重要な役割を担っている。

損害保険とは

将来の偶然の事故・災害や人の傷害など、家庭や企業を取り巻くさまざまなリスクによる経済的損失を補償するサービス

〳〵多種多様なリスク〳〵にに応じた保険商品の取り扱いが損害保険の特徴

損害保険分野のアクチュアリーの仕事

- ・損害保険のリスクの発生頻度・規模はさまざまであるため、それぞれの保険事故に関して発生頻度や損傷率を統計的に分析しながら、商品開発や商品内容・保険料の設定、準備金の評価などにを行う。
- ・さらに、金融と保険の融合が一段と加速する中、キャットボンドのように、保険リスクをカバーする金融商品の開発が進展し、また、天候デリバティブのような保険リスク以外のリスクを積極的に引き受ける保険会社も増加している。
- ・このような高度に数理的な手法を用いた商品の開発・引受、リスク管理を行うために、アクチュアリーの存在がますます重要になってきている。

企業年金制度 とは

企業が従業員を対象として実施する年金制度

企業の退職金制度に基づき企業年金制度を設計し、従業員への給付支払いを確実に行うために、企業は計画的かつ安定的に掛金を支払う

年金分野のアクチュアリーの仕事

- ・**企業年金制度の開始の際**、企業ニーズを踏まえ制度を設計し、確率・統計の手法を用いた年金数理計算により**掛金を算出**する。**制度開始後**は定期的に**掛金**や**積立水準を検証**する。
- ・また、**退職給付**に関する**企業会計上の債務評価**においても、重要な役割を担っている。所属会社は、従来からの信託銀行や生命保険会社、政令指定法人に加え、コンサルティング会社、監査法人などに広がってきている。
- ・企業年金制度は**企業財務**に大きく影響し、企業の**人事戦略**の一部となっていることから、制度の運営および見直しは重要な経営課題のひとつであり、年金アクチュアリーには、コンサルタントとしての問題解決能力も期待されている。

保険業法関係

- 保険業法第120条により、保険会社は保険計理人をおくことが求められているが、保険計理人は日本アクチュアリー会の正会員であることが要件となっている。

※ 保険計理人は、責任準備金の十分性、配当の衡平性、保険会社の事業継続可能性を毎年確認するほか、商品開発やリスク管理などに関与している。

- 日本アクチュアリー会は、保険業法第122条の2に規定に基づく指定法人であり、
 - － 標準責任準備金の計算の基礎となる
予定死亡率の作成
 - － 保険計理人の実務基準の作成
を行う業務の委託を受けている。

企業年金制度関係

- 厚生年金基金制度、国民年金基金制度、確定給付企業年金制度において、基金の財政を健全に維持することを目的として、年金数理人制度が導入されている。
- 年金数理人は、年金数理に関する書類について、適正な年金数理に基づいて作成されていることを確認し、署名押印をすることとされている。
- 年金数理人は、年金数理の専門家として、厚生労働大臣の認定を受ける。日本アクチュアリー会の正会員であることで要件の1つを満たす。

※ 2025年末導入予定の経済価値ベースのソルベンシー規制において、保険負債の検証にかかる責任者は日本アクチュアリー会の正会員であることが要件になる予定

I アクチュアリーとは？

II 日本アクチュアリー会の概要

III 試験・教育制度

IV 国際的活動

V 新しい領域へのチャレンジ

1899年に創立された120年以上の歴史を持つ団体であり、

- アクチュアリー学の研究調査
 - アクチュアリーの教育・育成
 - 海外のアクチュアリー団体との交流
- など幅広く活動している。

公益社団法人 日本アクチュアリー会 定款第3条(目的)

本会は、

- ✓ アクチュアリー学の総合的調査研究活動を通じ、
- ✓ アクチュアリーの専門職としての職務遂行能力の維持向上及びその関与する事業の健全な発展を図り、
- ✓ もって国民生活の安定及び国民経済の健全な発展に資することを目的とする。

Ⅱ 日本アクチュアリー会／会員の種類



The Institute of Actuaries of Japan
Think the Future, Manage the Risk

日本アクチュアリー会の会員の種類は、「正会員」「準会員」「研究会員」

有資格者＝いわゆるアクチュアリー

正会員

資格試験の**全科目(第1次・第2次試験)**に合格(+プロフェッショナリズム研修・特定分野研修を受講)し、理事会の承認を得た者

準会員

資格試験の**基礎科目(第1次試験)の全て**に合格し、理事会の承認を得た者

研究会員

資格試験の**第1次試験のうち1科目以上**に合格し、理事会の承認を得た者
入会を申込み、理事会の承認を得た者

※資格試験については後述

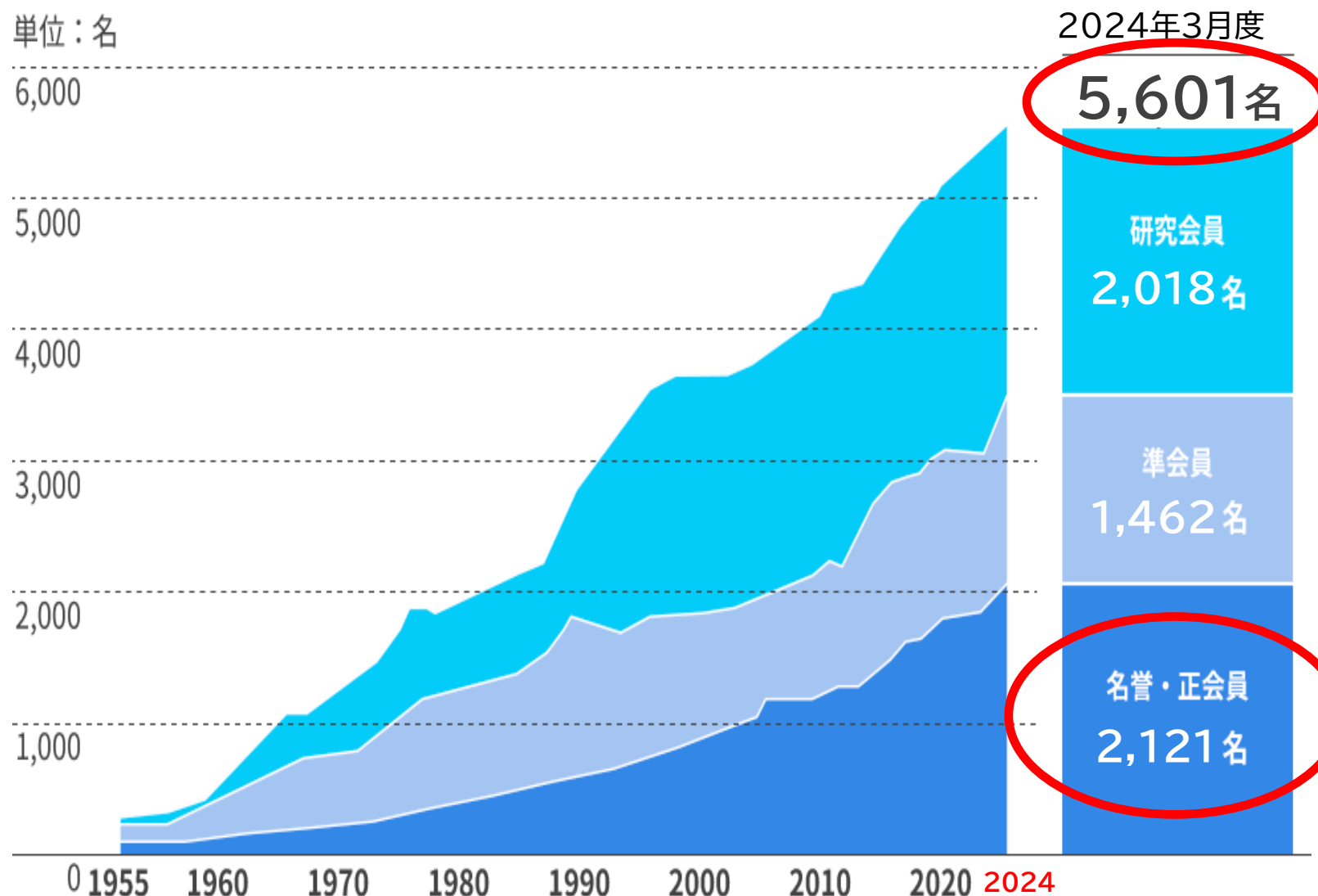
Ⅱ 日本アクチュアリー会／会員数



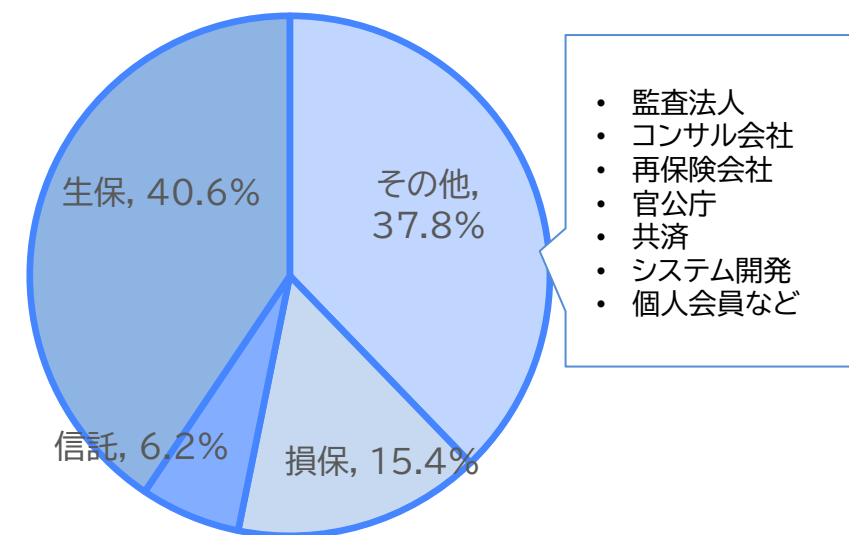
The Institute of Actuaries of Japan
Think the Future, Manage the Risk

活躍フィールドの拡大、大学生等への認知度の向上により、会員数は年々増加

単位：名



会員(合計)の所属組織の構成



(2024年3月末)

	生命 保険	信託 銀行	損害 保険	その他	合計
正会員	935	202	319	665	2,121
準会員	657	92	260	453	1,462
研究会員	681	55	284	998	2,018
合計	2,273	349	863	2,116	5,601

73の委員会・部会・研究会等があり、会員がメンバーとなり活動している。
理論面・実務面からの研究調査や当会の事業運営等を行っている。

試験・教育機能		企画機能		調査・研究機能、答申・建議機能	
試験・教育企画委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・アクチュアリー講座部会 ・テキスト部会 ・例会部会 ・セミナー部会 ・アクチュアリー国内研修準備部会 ・eラーニング部会 ・プロフェッショナル教育部会 ・特定分野研修（初期教育）運営部会 		企画委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・生保商品特別検討WG ・データサイエンス関連基礎調査WG ・年史編纂準備PT ・少短計理人実務検討部会 ・自主研究支援部会 ・AI関連調査WG 		国際基準対策委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・保険監督部会 ・保険会計部会 ・気候変動・サステナビリティ研究会 	
試験委員会		ICA2026組織委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ICA2026財務部会 ・ICA2026広報部会 ・ICA2026社交行事部会 ・ICA2026ロジスティクス部会 ・ICA2026スポンサー・展示部会 ・ICA2026学術部会 		年金・医療委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・国際関係部会（年金・医療） ・退職給付会計基準部会 ・年金基礎研究会 ・健康・医療研究会 ・社会保障問題研究会 	
C E R A資格委員会		総務機能		生保委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・実務基準部会（生保） ・ソルベンシー部会（生保） ・国際基準実務検討部会（生保） ・標準死亡率調査部会 	
大会委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム部会 		予算委員会		共済計理人の実務基準検討委員会	
学術機能		広報委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・アクチュアリーセミナー部会（合同） ・アクチュアリーセミナー部会（大学等） ・アクチュアリージャーナル編集部会 		I T委員会	
学術委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・論文レビュー部会 ・共同セミナー部会 		関西委員会		ERM委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・A L M研究会 	
				損保委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・実務基準部会（損保） ・ソルベンシー部会（損保） ・国際基準実務検討部会（損保） ・A S T I N関連研究会 ・巨大リスク研究会 	
				投資理論委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・A F I R関連研究会 	
				国際関係機能	
				国際関係委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・アクチュアリー海外研修準備部会 ・外国文献研究会 ・A S E A部会 	

I アクチュアリーとは？

II 日本アクチュアリー会の概要

III 試験・教育制度

IV 国際的活動

V 新しい領域へのチャレンジ

Ⅱ 日本アクチュアリー会／資格試験



The Institute of Actuaries of Japan
Think the Future, Manage the Risk

受験資格

- 資格試験直前の3月31日時点で満18歳以上の方

2023年度から変更

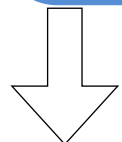
第1次試験
(基礎科目)

第2次試験を受けるに相当な基礎的知識を有するかどうかを判定

5科目

準会員

第1次試験、5科目の全てに合格



「生保コース」「損保コース」「年金コース」から1つを選択

第2次試験
(専門科目)

実務を行う上で、必要な専門的知識および問題解決能力を有するかどうかを判定

(1コース)

2科目

正会員

生保・損保・年金のいずれかのコースの2科目に合格
(+プロフェッショナリズム研修、特定分野研修※)

第1次試験

基礎科目 5科目

第2次試験を受けるに
相当な基礎的知識を
有するかどうかを判定

数学

【確率】 確率変数、確率分布、確率密度関数、分布関数／変数変換と和の分布／積率母関数、確率母関数、特性関数／中心極限定理 等
【統計】 統計的推定、区間推定／統計的検定／標本分布論と標本調査／最小2乗法と相関係数と回帰係数の推定、検定 等
【モデリング】 回帰分析／時系列解析／確率過程／シミュレーション 等

生保数理

【生保数理の基礎および応用】

利息の計算／生命表および生命関数／脱退残存表／純保険料／責任準備金(純保険料式)／計算基礎の変更／営業保険料／実務上の責任準備金／解約その他諸変更に伴う計算／連合生命に関する生命保険および年金／就業不能(または要介護)に関する諸給付／災害および疾病に関する保険 等

損保数理

【損保数理の基礎および応用】

料率算定の基礎(回帰分析等を含む)、リスクモデル／純保険料と営業保険料の算定方法／信頼性理論／経験料率、クラス料率／支払備金の数理／積立保険の数理／保険料算出原理／危険理論の基礎／再保険の数理／リスク評価の数理 等

年金数理

【年金数理と年金財政の基本】

年金数理の基本原理解／計算基礎率／年金現価率／定常人口論(含む人口モデル)／財政方式／保険料と責任準備金／積立金と過去勤務債務／数理的損益分析 等

会計・経済 ・投資理論

【会計】 財務会計制度／会計理論と会計基準／利益測定と資産評価／現金預金と有価証券／売上高と売上債権／棚卸資産と売上原価／有形固定資産と減価償却／無形固定資産と繰延資産／負債／株主資本と純資産／財務諸表の作成と公開 等

【経済】 ミクロ経済学(需要と供給、消費者行動、費用構造、市場取引と資源配分)／マクロ経済学(乗数メカニズム、貨幣の機能、マクロ経済政策) 等

【投資理論】 ポートフォリオ理論／CAPM／リスクニュートラル・プライシング／デリバティブの評価理論／債券投資分析／株式投資分析／デリバティブ投資分析 等

合格すれば「準会員」

アクチュアリー会のHPの「[アクチュアリーを目指す](#)」の「[資格試験過去問題集](#)」に昭和37年以降全ての過去問と解答が掲載。
また、アクチュアリー会発行の教科書はランディングページの最下部「[教科書・参考書](#)」で無償提供

※詳しくは「資格試験要領」を参照

第2次試験

専門科目 2科目

アクチュアリーとしての
の実務を行う上で必要
な専門的知識および
問題解決能力を有
するかどうかを判定

生保コース

生保1

生保商品の実務

営業保険料／解約および解約返戻金／アセットシェア／生命保険の商品開発／変額年金保険／団体生命保険／医療保険／再保険／商品毎収益検証

生保2

生保会計・決算

生命保険会計（税制を含む）／契約者配当／事業費の管理・分析／ソルベンシー／内部管理会計／相互会社と株式会社／変額年金保険／医療保険の責任準備金等／ALM

損保コース

損保1

損保商品の実務

損害保険業とは／損害保険料率／保険料の算定／再保険／リスク管理／損害保険業とアクチュアリー／リスクモデル／損害率・事業費率の分析

損保2

損保会計・決算・資産運用

損害保険業とは／損害保険会計の特色と体系／支払備金／責任準備金／資産運用／損害保険会計と税務／リスク管理／損害保険業とアクチュアリー／損害保険の損益分析

年金コース

年金1

公的年金制度・各種退職 給付制度の設計と税務

公的年金制度（国民年金・厚生年金保険）の設計／DB制度・DC制度の設計／退職金制度・中小企業退職金共済制度等／公的年金制度（国民年金・厚生年金保険）及び各種退職給付制度の税務

年金2

公的年金制度・企業年金制度の財政 並びに退職給付会計

公的年金制度（国民年金・厚生年金保険）の財政／DB制度の財政／退職給付会計（国際会計基準を含む）

合格すれば「正会員」

※プロフェッショナリズム研修・特定分野研修の受講も要件

全科目合格者＝新正会員
119名

第1次試験は、3,000名程度、
第2次試験は、1,000名程度が毎年受験

2024年度 資格試験 受験者数・合格率

第1次試験	数学	生保数理	損保数理	年金数理	会計・経済・投資理論
受験者数(人)	915	533	415	416	562
合格者数(人)	272	246	72	279	106
合格率	29.7%	46.2%	17.3%	67.1%	18.9%

第2次試験	生保1	生保2	損保1	損保2	年金1	年金2
受験者数(人)	353	348	130	106	66	56
合格者数(人)	93	72	20	26	13	8
合格率	26.3%	20.7%	15.4%	24.5%	19.7%	14.3%

試験日程：**12月中旬(年1回)**

申込日程：9月中旬～10月中旬

試験会場：右図のとおり

※2次試験は関東・大阪のみ

出題形式：

1次試験 選択式

2次試験 記述式

試験運営：CBT(コンピューターを利用した試験)

※2次試験の論述部分もキーボードで文章入力

【開催地域・都市】



※2次試験は、関東、大阪のみ

会員の教育制度の一環として、アクチュアリー養成のために、研究会員が対象の**基礎講座・追加演習講座**と、その上級コースとして**特論講座**を開講しています。

アクチュアリー 講座

(オンライン)

基礎講座

- ・確率論
- ・統計論
- ・数学(確率論演習)
- ・数学(統計論演習)
- ・モデリング
- ・生保数理

- ・損保数理
- ・年金数理
- ・会計学
- ・経済学
- ・投資理論
- ・生命表

追加演習講座

- ・生保数理演習
- ・損保数理演習

- ・年金数理演習
- ・モデリング演習

特論講座

- ・危険選択論
- ・社会保険論
- ・人口論
- ・保険監督法

- ・年金実務法規
- ・ファイナンス数理
- ・リスクマネジメント論

専門講座

- ・ERM

- ・データサイエンス

集合研修

年次大会 (ハイブリッド)

- ・ 毎年11月に開催。2日間にわたり、基調講演、多数の論文発表、有識者を交えたパネルディスカッションを実施

例会 (オンライン)

- ・ 会員が幅広い知識を身につけ、専門能力を高めることを目的として、国内外より専門家を招いて講演会を開催（年10回程度）

セミナー (オンライン)

- ・ 今日的・実践的なテーマについて、参加者が発表やディスカッションを通じて、理論・実践の両面での相互研鑽を行うセミナーを開催

eラーニング

- ・ HPの会員サイトから幅広いテーマの50を超える教育コンテンツを提供しており、時間・場所に捉われず自分のペースで学習が可能

機関誌等の発行

- ・ 会員の論文や各委員会の研究報告などを記載した、会報・会報別冊や例会の講演録や当会の活動状況を記載したアクチュアリージャーナルを発行

海外研修

- ・ 若手会員を対象とし、海外のアクチュアリー会の年次大会への参加等により、海外の現状を実務面から学ぶこと、語学力・コミュニケーション能力を向上させること等を目的とした研修を実施

I アクチュアリーとは？

II 日本アクチュアリー会の概要

III 試験・教育制度

IV 国際的活動

V 新しい領域へのチャレンジ

IV IAA(国際アクチュアリー会)



The Institute of Actuaries of Japan
Think the Future, Manage the Risk

全世界で 88カ国／100団体 約9万名

IAA(国際アクチュアリー会)は、

- 各国・各地域のアクチュアリー会を
会員とする組織
- 世界88カ国のアクチュアリー会が加
盟

日本アクチュアリー会は、IAAの正会員
組織

国際アクチュアリー会(IAA)の役割

- IASB(国際会計基準審議会)、IAIS(保険監
督者国際機構)等の国際的な機関に対してア
クチュリアルな観点からの協力
- 国際的なアクチュアリー教育のシラバスの設定
- AFIR(投資理論・ALM)、ASTIN(損害保険
関連のアクチュアリー学)等の学術活動(世界
のアクチュアリー間での研究成果の共有)

欧州

42カ国／47団体 37,524名

イギリス(IfOA) : 16,736名
イギリス(ACA) : 1,655名
ドイツ : 6,390名
フランス : 2,620名

アイルランド : 1,479名
スペイン(IAE) : 1,299名
オランダ : 1,279名
イタリア : 1,126名

ベルギー
スイス
デンマーク
オーストリア
ノルウェー
ポーランド
ポルトガル
スウェーデン
ロシア
クロアチア
ギリシャ
チェコ
フィンランド

ハンガリー
スロベニア
カザフスタン
キプロス
ブルガリア
ルーマニア
セルビア
スロバキア
リトアニア
マケドニア
モンテネグロ
ボスニア・ヘルツェゴビナ
エストニア

アイスランド
ラトビア
アルバニア
アルメニア
アゼルバイジャン
ジョージア
ルクセンブルク
モルドバ
ウクライナ

アフリカ

16カ国／16団体 2,299名

南アフリカ : 2,023名

ケニア
ガーナ
ベニン
チュニジア
モロッコ
エジプト
ナイジェリア

トーゴ
モザンビーク
ナミビア
セネガル
タンザニア
ウガンダ
ザンビア

ジンバブエ

アジア・オセアニア

16カ国／17団体 12,622名

オーストラリア : 3,882名
日本(IAJ) : 2,056名
韓国 : 1,129名
中国 : 1,051名

香港
シンガポール
インド
日本(年金)
台湾
インドネシア
ニュージーランド
マレーシア
フィリピン

タイ
パキスタン
モンゴル

北米

2カ国／5団体 38,439名

アメリカ(SOA) : 20,021名
アメリカ(CAS) : 10,170名
カナダ : 6,425名
アメリカ(CCA) : 1,248名

アメリカ(ASPPA)

中南米

8カ国／11団体 2,337名

ブラジル : 1,231名

メキシコ
アルゼンチン
カリブ地域
パナマ

コロンビア
エクアドル
チリ

中東

4カ国／4団体 346名

イスラエル
トルコ

レバノン
イラン

※1,000名以上のアクチュアリー会は個人会員数を記載



日時

2026年11月8日-13日

テーマ

Tradition, Diversity, Innovation

方式

ハイブリット (対面 & オンライン)

会場

東京国際フォーラム

ICA2026 公式ウェブサイト



<https://ica2026.org/>

公式SNSアカウント

X

ICA2026 Tokyo (@ICA2026)

Facebook

ICA2026 Tokyo(ica2026.tokyo)

LinkedIn

ICA2026 Tokyo

I アクチュアリーとは？

II 日本アクチュアリー会の概要

III 試験・教育制度

IV 国際的活動

V 新しい領域へのチャレンジ

新しい領域へのチャレンジ

ERM(リスク管理)

データサイエンス

社会・経済環境の

多様化・洗練化・複雑化

アクチュアリーが、その能力を発揮

公益
事業

生命保険

損害保険

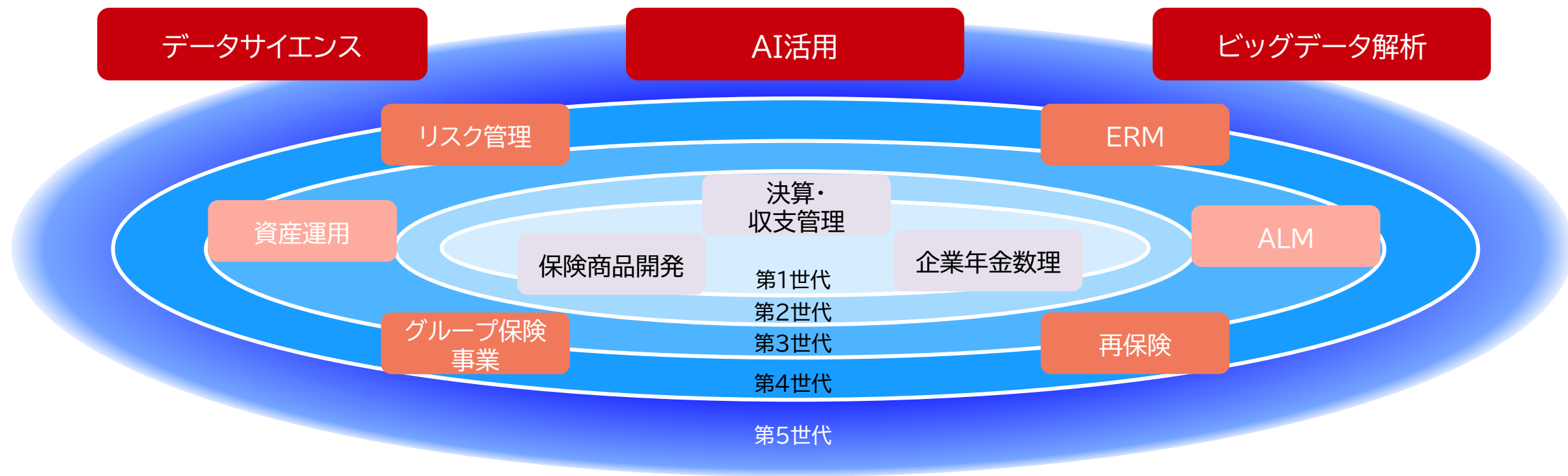
年金

V 新しい領域へのチャレンジ(活躍フィールド)



アクチュアリーの活躍フィールドは多岐に渡り、各分野で経営の根幹に関わることが可能
アクチュアリー、クオンツ、データサイエンティストの枠を超えて活躍

アクチュアリーが活躍する主なフィールド



経営計画

ERM

エンタープライズリスクマネジメント

企業等が業務遂行上の全てのリスクに関して、組織全体の視点から統合的・包括的・戦略的に把握・評価し、企業価値の最大化を図る収益・リスク管理のアプローチ

企業を取り巻く**リスクの増加・多様化**、説明責任の増大といった環境変化から、近年リスクマネジメントの重要性が急速に認識されるようになった。

リスクマネジメント分野のアクチュアリーの仕事

- ・**アクチュアリー**は、従来から保険や年金の分野でさまざまな**リスク管理**に関する業務に携わっており、定量的分析を行う数理モデル作成の技術を備えている。
- ・加えて、アクチュアリー行動規範に従う専門職能者としての倫理性など、リスクマネジメント分野で求められる多くの重要な特性を有している。
- ・このため、国際的にも、**その専門性を活かしてERM分野でアクチュアリーの貢献が一層期待されている**。
- ・ERMのプロフェッショナルとして「**CERA**」という国際資格があり、英国のアクチュアリー会の試験合格等によりCERA資格を取得することができる。

データ サイエンス

数学や統計、機械学習、プログラミングなどの理論を活用して、データからビジネスに活用可能な価値を引き出す技術

ビックデータやAIという言葉を頻繁に見かける時代になり、データサイエンスはかなり身近な技術になってきた。

データサイエンス分野のアクチュアリーの仕事

- ・アクチュアリーの持つ専門性は、**データサイエンス**とも**親和性が高い**
- ・医療関係データの危険選択への活用、解約率モデルの開発、保険引受基準の緩和、損害保険のプライシング等、**一部のアクチュアリーは、実際にデータサイエンスの技術を業務に活用しはじめている。**



アクチュアリー会として

会員向け教育

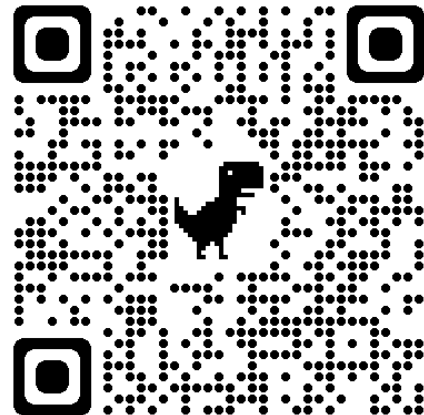
- ・**専門講座や特定分野研修**を開催し、データサイエンスに関する基礎知識や実務的な技術を教育

調査研究

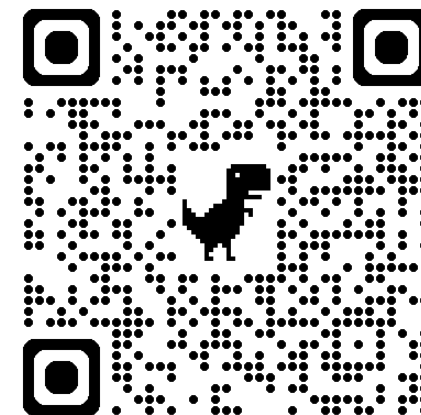
- ・**調査研究WG**を設置し、具体的な調査・研究や会員への情報共有を実施

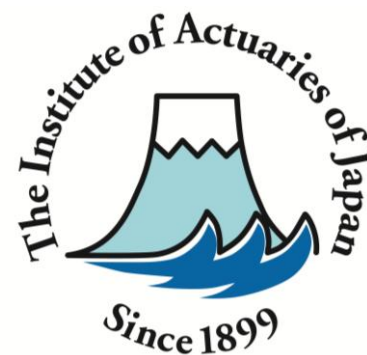
- このパートでは、アクチュアリーやアクチュアリー会の基本的な内容について説明しました。
- アクチュアリーに関する情報は当会HPに充実していますので、ご覧ください。
- たくさんの先輩アクチュアリーと話をして、アクチュアリーの魅力を知っていただければと思います。

アクチュアリー会HP



アクチュアリー会SNS(X)





公益社団法人 **日本アクチュアリー会**
Think the Future, Manage the Risk